

秘策で楽しむ、パウダーの意外な穴場？ _____

北アルプス 安房山北西面・焼岳南尾根山スキー

_____石井

【日時】2010年1月30日～31日

【メンバー】田村（L）、木下、石井

すっかりスキーがご無沙汰となってしまう昨今、木下さん、田村さんに誘われての山スキーとなった。このところ平湯周辺がお気に入り、焼岳にも数回登っている木下さんの提案で今回のルートとなったが、焼岳初見参の田村さんと石井には願ってもない好条件で楽しめた。

前夜は沢渡の売店の駐車場で仮眠したが、朝起きて準備していると早速タクシーが客引きで寄って来た。超ベテラン運転手（76歳？）のおじいさんの計らいで、見事ノ湯前までアプローチに成功、これで1時間以上の貯金ができた。

除雪されていない旧国道のつづら折れをショートカットしながらシールで登り、焼岳-安房山の狭い鞍部を越えていく。僅かに下ると雪原が開け、1622標高点の少し西側の樹林の際にベースを設営し、泊まり装備をデポする。

急に狭くなった窪を詰めて再び鞍部を越え、小船の凹地の際をトラバースする。西側の浅い沢型を稜線まで詰めるのがやや急で、直下は雪付きも悪い。稜線に出たからは雪庇のうねりが多くて少々難儀したが、1時間強でアンテナが乱立する頂上に出た。

下りは「オープンスロープが見えた」と田村さんが目星を付けていた、頂稜の北端から北西向きに落ちる沢型を目指す。天候は時折薄日が差す程度の高曇り、展望は今一つだったが、雪質は上々と言って良いだろう。出だしこそ急で樹間が濃かったが、少し下ると狙



泊まった 1622 付近の雪原



小船に向け安房山北西面を滑る



い通りのオープンバーンに！三人とも歓声を上げながらパウダーを蹴散らしていく。下部はやや板に引っ掛かる雪質になったが、それでも小船の底まで標高差500mのプチダウンヒルを堪能できた。小船からシールを貼ってベースまでひと登りとひと滑り、あとは滑降の余韻に浸って午後の贅沢なビールタイム、のほろが早々に酒が回って気が付いたら寝るような時間だった。

午後から天気が崩れる予報なので、翌朝は明けきらない時間から行動開始とする。鞍部まで戻り、概ね焼岳南尾根の登山道に沿ってシールで登り上げていく。斜度が緩んでくると針葉樹林帯のアップダウンが煩わしく、下り向きではないと思わせるルートだ。標高が2000mを越える辺りで広い尾根の右手をいき、ダケカンバ帯となってようやく下掘沢上部の大斜面と焼岳が望まれた。左手の尾根を側面から登り上げていくと雪面がいよいよ堅くなり、シールは限界となる。小さなコルに出たところでスキーはデポ、あとはバイルとアイゼンで南峰へと登った。ガスの合間から穂高連峰が垣間見え、厳冬期の北アルプスの一角であることを実感した。デポへと戻り、雪が緩む辺りまでスキーは持って下ることにする。

さて、お楽しみはこれからだ。雪質の良さは昨日ほどではないにしろ、広いバーンのロケーションは昨日以上、今日も雄叫びを上げながら三者三様のシュプールを刻んでいく。が、平坦地まで標高差にして250mほどなのであつという間、尾根通しを避けて南西方向の沢型を目指してやや強引にトラバースしていく。

針葉樹の雪付きの悪い急斜面をだましだまし下りていくと、まあどうにか楽しめる斜面になってきて、最後はドンピシャでテン場に帰着。撤収後、帰りも中ノ湯の玄関先までスキーで滑り込むことができ、温泉で冷えた体を温めてから迎えのタクシーに乗車。



焼岳南峰を目指す



穂高をバックにピークにて

雪のちらつきはじめた中、車に戻って帰京と、何とも段取りの上手くいった山スキーでした。アプローチが解決すれば人は増えるかもしれないけど、便利な割に静寂なのが魅力のルートでした。

【行程】 1/30

中ノ湯 (8:15) ~1622付近C1

(9:05/35) ~安房山 (12:20/40) ~
C1 (14:15)

1/31

C1 (6:25) ~焼岳 (10:40/45) ~C1
(12:10/40) ~中ノ湯 (13:15)

【地形図】 1:25000焼岳